

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	3
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	13
6 サイエンスカフェの開催	13
7 総合科学技術・イノベーション会議報告	13
8 慶弔	14
9 インパクト・レポート	14

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
3月21日(木) ～26日(木)	日本学術会議・イスラエル科学人文アカデミー 水に関するジョイントワークショップ(エルサレム、テルアビブ他)	花木副会長
3月14日(土) ～17日(火)	第三回国連防災世界会議(仙台国際センター)	大西会長
3月14日(土)	第三回国連防災世界会議 開会式(仙台国際センター)	大西会長
3月14日(土)	内閣府主催 東日本大震災総合フォーラム(東北大学川内キャンパス 萩ホール)	大西会長
3月14日(土)	日本政府主催 歓迎レセプション(仙台ロイヤルパークホテル)	大西会長
3月20日(金)	御礼記帳(東宮御所)	大西会長

(注) 部会、委員会等を除く。

2 委員の辞任

○情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会

坂庭 好一(平成27年1月31日付)

○土木工学・建築学委員会 地方創生のための国土・まちづくり分科会

和田 章(平成27年3月4日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部拡大役員会(第2回)(2月27日)

①幹事会の動向について

②「科学と社会のあり方を再構築する分科会」について

③人文・社会科学の振興について ④学会連合に関する資料について

⑤4月部会および夏期部会について ⑥その他

(2) 第三部拡大役員会(第4回)(3月27日)

①「第5期科学技術基本計画のあり方を考える委員会」の提言について

- ②大型計画マスタープラン：現状と意見交換
- ③平成 27 年度夏期部会について
- ④大学改革と「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会」について
- ⑤その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 東日本大震災復興支援委員会 原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会 (第2回) (3月5日)

- ①役員の追加 ②小委員会の設置について ③参考人からの報告
- ④分科会の進め方 ⑤その他

(2) フューチャー・アースの推進に関する委員会 (第2回) (3月13日)

- ①FE 関連の国内外の会議等の報告
- ②今後の方向性と国内外の対応に関する審議
- ③FE の分科会活動についての検討 ④その他

(3) フューチャー・アースの推進に関する委員会 フューチャー・アースの国際的展開対応分科会 (第1回) (3月13日)

- ①役員選出
- ②フューチャー・アース 5 か国連携分散型国際本部事務局会合に係る分科会委員の派遣について
- ③その他

(4) 東日本大震災復興支援委員会 原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会 (第3回) (3月20日)

- ①参考人からの報告 (日本大学・野口邦和氏) ②その他

(5) 東日本復興支援委員会 エネルギー供給問題検討分科会 (第2回) (3月20日)

- ①国際シンポジウム「日本における再生可能エネルギーの利用拡大に向けて」の報告
- ②最新動向について話題提供
 - 「電源ミックス」をめぐって (橘川副委員長)
 - 「再生可能エネルギー政策の課題—FIT 制度を中心に—」 (植田委員)
- ③今後の審議の進め方について ④その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学と社会委員会 課題別審議分科会 (第2回) (2月27日)

- ①オープンサイエンスの取組みに関する検討委員会の委員の決定について
- ②その他

(2) 科学と社会委員会 年次報告等検討分科会 (第2回) (3月6日)

- ①外部評価委員からの評価聴取 ②その他

(3) 国際委員会 アジア学術会議分科会 (第3回) (3月6日)

- ①アジア学術会議分科会 (第1回) 議事要旨 (案) について
- ②副委員長の指名について ③アジア学術会議について
- ④第15回アジア学術会議 (カンボジア会合) について
- ⑤第15回アジア学術会議への会員の派遣について
- ⑥第15回アジア学術会議への外国人の招へいについて
- ⑦国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について ⑧その他

(4) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第1回) (3月23日)

- ①委員長等の選出について ②委員の追加について
- ③男女共同参画分科会の運営について ④その他

(5) 国際委員会 (第7回) (3月26日)

- ①第15回アジア学術会議年次会合 (15th Science Council of Asia Conference) への会員等の派遣及び外国人の招聘 (平成27年3月6日アジア学術会議分科会承認)
- ②国際業務に参画するための特任連携会員の推薦 (アジア学術会議年次会合派遣者) (平成27年3月6日アジア学術会議分科会承認) について
- ③国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会設置期限の延長に伴う特任連携会員の推薦 (任期の延長) について

4 分野別委員会の開催とその議題

(1) 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会 (第2回) (3月1日)

- ①第23期の本分科会の課題の協議と整理 ②その他

(2) 史学委員会 IUHPST分科会 (第2回) (3月1日)

- ①今後の活動 ②第2回アジア科学教育科学史会議の報告
- ③国際活動の状況報告 ④その他

(3) 法学委員会 「IT社会と法」分科会 (第1回) (3月3日)

- ①役員の選出 ②前期までの活動報告
- ③今期の活動計画・テーマについて ④その他

(4) 法学委員会 「新たな規範的秩序の生成」分科会 (第1回) (3月4日)

- ①役員の選出について ②今期の分科会活動について ③その他

(5) 経済学委員会 数量的経済・政策分析分科会 (第1回) (3月6日)

- ①役員人事の決定 ②今後の活動内容に関する意見交換 ③その他

(6) 社会学委員会 社会変動と若者問題分科会 (第2回) (3月6日)

- ①シンポジウムについて ②その他

(7) 史学委員会 高校歴史教育に関する分科会 (第2回) (3月6日)

- ①中教審の審議状況等の確認 ②実験校の経験を踏まえた「歴史基礎」案の検討
- ③その他

(8) 社会学委員会・経済学委員会合同 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第2回) (3月10日)

- ①前回提言の説明 ②提言・シンポジウム準備の進捗状況報告
- ③今後のスケジュール ④その他

(9) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会 (第2回) (3月10日)

- ①報告 逸身喜一郎氏 (ギリシア古典)
報告 渡部泰明氏 (日本古典)
- ②審議事項
・7月の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」関連シンポジウムの件
- ③その他

(10) 経済学委員会 IEHA分科会 (第1回) (3月11日)

- ①WEHC2015の準備状況について ②IEHA理事会の構成について
- ③分科会役員について ④その他

(11) 社会学委員会 メディア・文化研究分科会 (第1回) (3月14日)
①今期の分科会体制について ②今期の活動方針 ③その他

(12) 言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会 (第2回) (3月16日)
①話題提供と討議

A. 【学校教育における言語教育】

話題提供：「学校英語教育に関する学理と政策の乖離」 斎藤兆史氏

コメント：大津由紀雄氏

B. 【言語弱者/情報弱者】

話題提供：「言語・情報弱者をめぐる言語計画の諸問題」 渋谷勝己氏

コメント：金山富美氏

②今後の活動について ③その他

(13) 法学委員会 人口減少社会と法分科会 (第1回) (3月16日)
①役員 (委員長、副委員長、幹事) 選出 ②参加者の自己紹介
③吉田克己「人口減少社会と都市法・土地法」
④今後の分科会活動について ⑤その他

(14) 社会学委員会 社会学コンソーシアム分科会 (第3回) (3月19日)
①社会学系コンソーシアムとの共同作業について
②SOF-Jの今後の活用について ③その他

(15) 社会学委員会 社会理論分科会 (第2回) (3月19日)
①今期の活動内容について ②その他

(16) 地域研究委員会 国際地域開発分科会 (第1回) (3月19日)
①委員長、副委員長、幹事の選出 ②23期の活動方針について
③報告：溝端委員『これからの日本の国際協力』について、
「何が良くて、何が弱点で、何が欠けているか」
④その他

(17) 哲学委員会 哲学分野の参照基準検討分科会 (第4回) (3月21日)
①参照基準原案の検討 ②その他

(18) 史学委員会 歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会 (第1回) (3月21日)
①役員の選出 ②分科会の今期の諸課題について ③その他

(19) 経営学委員会 (第2回) (3月22日)

- ①各分科会活動について ②今後の経営学委員会活動について ③その他

(20) 経営学委員会 経営学大学院教育のあり方検討分科会 (第3回) (3月22日)

- ①学術フォーラムの準備状況、役割分担の確認 ②パネル討論の進め方
③第23期の経営学委員会と経営学大学院分科会の活動について
(川本経営学委員会委員長、上林経営学委員会委員)
④その他

(21) 史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会 (第2回) (3月23日)

- ①諸問題の報告と検討
(i) 東日本大震災復興関連文化財保護の現状と課題 佐川委員
(ii) 日本の文化財保護の歴史と特徴 (記念物ジャンルを中心に) 大久保委員
(iii) 文化庁委員会報告 (H26.10.31付) の検討 福永委員
②次回分科会の開催予定について ③その他

(22) 法学委員会 「学術と法」分科会 (第2回) (3月24日)

- ①廣渡清吾「日本学術会議と科学者の社会的責任」
②三成賢次「学術政策に係るわが国の状況とEUの動向紹介」 ③その他

(23) 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会 (第2回) (3月26日)

- ①文化財および関連資料・デジタルデータの保存管理の現状報告
栗原祐司氏 (東京国立博物館総務部長)
「文化財防災ネットワーク推進事業について」
西谷 大氏 (国立歴史民俗博物館教授)
「日本歴史のバックアップ事業とメタ資料学について」
②平成28年度考古学協会総会 (平成28年5月末、東京学芸大) での共催セッションの開催について
③その他

第二部担当

(1) 歯学委員会 (第3回) (3月2日)

- ①今後の活動方針について ②その他

(2) 歯学委員会 基礎系歯学分科会 (第1回)、病態系歯学分科会 (第1回)、臨床系歯学分科会 (第1回)、歯学教育分科会 (第1回) 合同会議 (3月2日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出 ②今後の活動方針について
- ③その他

(3) 臨床医学委員会 出生・発達分科会 (第2回) (3月2日)

- ①今回の分科会の取り組み課題について ②分科会委員の追加について
- ③その他

(4) 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会 (第2回) (3月4日)

- ①副委員長・幹事選任結果報告 ②本年度活動方針 ③その他

(5) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会 (第2回) (3月6日)

- ①特別講演：S I P次世代農林水産業創造技術研究開発計画について
プログラムディレクター西尾 健氏 (法政大学教授)
- ②WGの活動計画について ③シンポジウム企画 (宮崎大学) について
- ④その他

(6) 薬学委員会 薬学教育分科会 (第1回) (3月10日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出
- ②分科会の活動方針と今期の活動計画 ③その他

(7) 基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会 (第1回) (3月10日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出 ②今後の活動について ③その他

(8) 農学委員会 応用昆虫学分科会 (第2回) (3月10日)

- ①2015年公開シンポジウムについて ②その他

(9) 農学委員会 育種学分科会 (第1回) (3月11日)

- ①委員長・副委員長・幹事選出 ②23期で検討すべき事項について
- ③23期での分科会提言 (または報告) について ④自由討議・その他

(10) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会 (第1回) (3

月 1 2 日)

- ①第 2 3 期分科会役員選出 ②第 2 2 期からの活動報告
- ③第 2 3 期の活動方針 ④その他

(11) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会 (第 1 回) (3 月 1 2 日)

- ①委員長の選任 ②今期の活動計画 ③その他

(12) 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会 (第 1 回) (3 月 1 7 日)

- ①委員長選出 ②副委員長、幹事選任
- ③今期活動方針 ④その他

(13) 基礎医学委員会 IUPHAR 分科会 (第 2 回) (3 月 1 9 日)

- ①WCP 2 0 1 8 開催準備について ②その他

(14) 薬学委員会 医療系薬学分科会 (第 1 回) (3 月 2 0 日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出
- ②分科会の活動方針と今期の活動方針
- ③その他

(15) 基礎医学委員会 IUPS 分科会 (第 2 回) (3 月 2 2 日)

- ①第 2 3 期の IUPS 分科会活動方針の検討 ②その他

(16) 基礎医学委員会 IUBMB 分科会 (第 1 回) (3 月 2 3 日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出
- ②2 0 1 5 年 IUBMB ブラジル大会への派遣者の決定
- ③今後の活動方針について ④その他

(17) 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会 (第 3 回) (3 月 2 3 日)

- ①受動喫煙防止条例制定の提言について ②電子タバコ (ENDS) について
- ③シンポジウム開催について ④その他

(18) 基礎医学委員会・統合生物学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・薬学委員会合同 実験動物分科会 (第 1 回) (3 月 2 4 日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出
- ②動物実験及び実験動物に関する現状について

③今後の課題 ④その他

(19) 心理学・教育学委員会・臨床医学会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会 (第1回)
(3月25日)

- ①分科会委員の構成と副委員長について
- ②成育コミュニティの課題と提言についての最終討議
- ③今後の討議の進め方について ④その他

第三部担当

(1) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会 (第1回) (2月27日)

- ①23期役員決め ②関連分科会・小委員会の活動報告
- ③今期の方針決定 ④その他

(2) 総合工学委員会 (第2回) (3月2日)

- ①これまでの活動報告 ②総合工学委員会の今季活動について
- ③総合工学企画分科会との関係について ④その他

(3) 電気電子工学委員会制御・パワー分科会 (第1回) (3月3日)

- ①参加者自己紹介 ②経緯説明③本分科会役員の選出 ④分科会活動計画
- ⑤その他

(4) 土木工学・建築学委員会 インフラ健全化システム分科会 (第1回) (3月3日)

- ①委員長、副委員長、幹事の決定 ②活動方針の審議 ③意見交換
- ④今後の予定など

(5) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 (第2回) (3月4日)

- ①今期の分科会活動方針と地方創生分科会との連携のあり方 ②その他

(6) 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 (第2回) (3月4日)

- ①WDS小委員会の設置にかかわる議論 ②学術フォーラムについて

(7) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS合同分科会 MAHASRI・GEWEX小委員会 (第1回)

(3月4日)

- ①委員長・副委員長・幹事について
- ②前回以降のMAHASRI・AMY等に関連した活動について
- ③各地域、関連するプロジェクト(SATREPS、GRENE 他)等について
- ④AMY再解析について ⑤今後の予定 ⑥その他

(8) 土木工学・建築学委員会 地方創生のための国土・まちづくり分科会 (第2回) (3月4日)

- ①自己紹介(新任の方)・資料確認
- ②第23期地方創生のための国土・まちづくり分科会の活動方針の確認
- ③「まち・ひと・しごと創生本部の施策について」
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣参事官 新井 毅氏
- ④地方創生支障となる法制度と改善提案について ⑤今後の予定

(9) 土木工学・建築学委員会 知的創造と活動を喚起する環境としての大学等キャンパスに関する検討分科会 (第1回) (3月6日)

- ①委員長・副委員長・幹事の選任 ②これまでの活動の主旨・内容の報告
- ③今期の分科会の活動方針・内容の検討 ④その他

(10) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第2回) (3月7日)

- ①国内大型加速器設置の財政的基盤について ②その他

(11) 情報学委員会 (第2回) および各分科会合同会議 (3月9日)

- ①第23期の活動方針 ②その他

(12) 情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会 (第2回) (3月9日)

- ①第23期の分科会活動について ②その他

(13) 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 (第3回) (3月9日)

- ①委員長・副委員長・幹事の選出 ②前期の活動報告
- ③情報学分野の参照基準について ④今期の活動について ⑤その他

(14) 情報学委員会 情報科学技術教育分科会 (第1回) (3月9日)

- ①学術フォーラムのフォローアップ ②その他

(15) 情報学委員会 ユビキタス状況認識社会基盤分科会 (第1回) (3月9日)

- ①役員の選出 ②第22期からの引き継ぎ事項について

③第23期の活動について ④その他

(16) 情報学委員会 ITメディア社会基盤・震災時メディアアーカイブ分科会
(第1回) (3月9日)

①第23期の活動方針について ②情報交換

(17) 情報学委員会 環境知能分科会 (第2回) (3月9日)

①情報処理学会など学会との連携のシンポジウムについて

②環境知能分科会のホームページについて ③その他

(18) 情報学委員会 安全・安心社会と情報技術分科会 (第1回) (3月9日)

①役員の選出 ②第22期からの引き継ぎ事項について

③第23期の活動について ④その他

(19) 情報学委員会 ソフトウェア工学分科会 (第1回) (3月9日)

①ソフトウェア工学分科会設立趣旨について

②委員長、副委員長、幹事の選出 ③各委員の自己紹介と課題認識について

④第23期の活動内容検討

⑤第23期において、情報学の重要性を示す活動、あるいは情報学分野において
議論を深めるべき特定の課題について

⑥その他

(20) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学
設計分科会 計算音響学小委員会 (第1回) (3月9日)

①自己紹介 ②委員長、副委員長、幹事の選出

③話題提供 (各40分程度)

大富 浩一 先生 (東大)

「音質評価の現状と課題について (企業の立場から)」

谷口 隆晴 先生 (神戸大)

「楽器シミュレーションにおける数値計算法について」

(21) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVER
SITAS合同分科会 CLIVAR小委員会 (第1回) (3月10日)

①23期役員の選出 ②国内外の動向に関する情報交換

③今期の方針決定 ④その他

(22) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・

リスク検討分科会 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会（第1回）（3月11日）

- ①第23期の活動計画 ②内外の化学兵器処理の現状 ③その他

（23）物理学委員会（第2回）（3月12日）

- ①第23期物理学委員会の課題について ②各分科会の活動報告

（24）環境学委員会 環境政策・環境計画分科会（第2回）（3月13日）

- ①future designに関する話題提供及び議論

「フューチャーデザイン：研究枠組みと事例紹介」上須道徳氏

「メゾレベル研究とフューチャーデザイン：自治体との協働実践から」原圭史郎氏

- ②分科会の今後の進め方について ③今後の予定

（25）環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS分科会（第1回）（3月13日）

- ①23期役員決め ②関連小委員会の活動報告

- ③国内外の動向に関する情報交換 ④今期の方針決定 ⑤その他

（26）土木工学・建築学委員会 土木工学・建築学企画分科会（第2回）（3月13日）

- ①自己紹介、資料確認 ②第23期土木工学・建築学委員会の活動方針の確認

- ③各分科会の構成と活動方針（役員の決定結果を含む）

- ④学術の大型研究計画についての検討

- ⑤その他（学術フォーラム、シンポジウム、講演会等の紹介） ⑥次回の予定

（27）地球惑星科学委員会 IUGS分科会（第2回）（3月15日）

- ①第三回国連防災世界会議ワークショップについて ②その他

（28）数理科学委員会 数学教育分科会（第2回）（3月16日）

- ①特任連携会員の任命について ②前期の記録を提言とする件について

- ③その他

（29）総合工学委員会 ICO分科会（第3回）（3月17日）

- ①国際光年の活動について ②ICO-24について ③その他

（30）地情報学委員会 e-サイエンス・データ中心科学分科会（第1回）（3月

18日)

- ①委員長、副委員長、幹事の互選 ②前期の活動報告
- ③各委員からの報告 ④今後の活動方針について

(31) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 (第2回) (3月25日)

- ①話題提供 (小口委員) ②6月20日の学術フォーラムについて
- ③今後の活動について
 - 1) 前期の提言を生かすための活動
 - 2) "Human Geoscience" の商業出版
 - 3) フューチャーアースへの対応
- ④日本地球惑星科学連合2015年大会について ⑤その他

5 課題別委員会の開催とその議題

なし

6 サイエンスカフェの開催

日 時：2月28日 (金) 15:00～16:30
場 所：三省堂書店札幌店 (JR 札幌ステラプレイス 5 階)
テーマ：「水がまわれば暮らしもまわる」
ゲスト：船水 尚行 (北海道大学大学院工学研究院教授)
コーディネーター：田中 加奈子 (CoSTEP7 期修了生・自然ガイド)

日 時：3月11日 (水) 17:00～18:30
場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ (旧庁舎 1 階)
テーマ：「セキュリティ研究の最前線」
ゲスト：金岡 晃 (東邦大学講師)
岩村 誠 (日本電信電話(株)セキュアプラットフォーム研究所)
羽田 大樹 (NTT コムセキュリティ(株)オペレーション&コンサルティング部)
ナビゲータ：後藤 厚宏 (日本学術会議連携会員 情報セキュリティ大学院大学教授)

7 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

3月19日 欠席 第4回基本計画専門調査会

3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

3月 5日 出席

3月12日 出席

3月19日 欠席

8 慶弔

・慶事

【恩賜賞、日本学士院賞】 3月12日発表

細野 秀雄（会員(22-23期)、元連携会員(第20, 21-22期)）

【日本学士院賞】 3月12日発表

鈴木 啓介（連携会員(第20, 22-23期)）

牧島 一夫（元連携会員(第20, 21-22期)）

吉田 稔（連携会員(第22-23期)）

満屋 裕明（連携会員(第23-24期)、元会員(第21-22期)、元連携会員（第20期））

【ガードナー国際賞】 3月25日発表

大隅 良典（連携会員(第20-21, 22-23期)）

坂口 志文（連携会員(第20, 23-24期)）

9 インパクト・レポート

提言「我が国のバイオセーフティレベル4(BSL-4)施設の必要性について」 インパクト・レポート

1 提言内容

我が国が感染症研究の分野で今後も高い研究水準を維持し、国際貢献を継続するには、国内の BSL-4 施設の整備と当該研究の強化は最重要課題の一つである。国外の BSL-4 病原体の国内への侵入と、それによる感染症はいつでも発生する可能性がある。また、バイオテロとして BSL-4 病原体が使われる可能性も

考慮すべきである。このように、いつ侵入してきてもおかしくない、あるいは、人為的にバイオテロとして使われるかもしれない BSL-4 病原体から国民の生命の安全を担保するために、危機管理の観点からも早急に BSL-4 施設を整備する必要がある。

- (1) 重篤な感染症の対策上、病原体分離に基づく検査を行い得る BSL-4 施設が必要である。
- (2) 重篤な感染症に対する対策および国際貢献の観点から、病原体検査に加え、病原体解析、動物実験、治療法・ワクチン開発等の研究が可能な最新の設備を備えた BSL-4 施設の新設が必要である。
- (3) 新施設の建設には、大学等の研究機関がある等、科学的基盤が整備されている場所が望まれる。また、地震等自然災害による使用不能事態に備えてできれば複数の地域に建設することが望ましい。
- (4) 新施設の建設に当たっては、地元自治体、地域住民とのコミュニケーションを準備段階からとり、十分な合意と理解と信頼を得つつ進める必要がある。
- (5) 新施設は国が管理・運営に責任を持ち、また、国の共同利用施設としての組織運営がなされるべきである。

2 提言の年月日

平成 26 年 3 月 20 日

3 社会的インパクト

(1) 政策:

本提言および提言「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン (マスタープラン 2014)」等に基づき、平成 26 年 8 月 6 日の文部科学省の「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 ロードマップの策定 (ロードマップ 2014)」に「高度安全実験 (BSL-4) 施設を中核とした感染症研究拠点の形成」が掲載された。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

本提言の内容に関しては、関連学協会である日本細菌学会、日本熱帯医学会、日本ワクチン学会、日本バイオセーフティ学会、日本感染症学会、日本ウイルス学会が従来から賛同している。

長崎大学は、本提言やマスタープラン 2014、さらには文部科学省のロードマップ 2014 に「高度安全実験 (BSL-4) 施設を中核とした感染症研究拠点の形成」が掲載されたことを踏まえて、長崎大学に BSL-4 施設の設置を実現させるために長崎市及び長崎県と協議を進めた。平成 26 年 12 月に、市と大学の協力を求める請願が長崎市議会で採択され、県議会でも同趣旨の意見書が可決されたこ

とから、大学、市、県の3者で協議機関を設けて設置に向けた課題解決にあたっていくことになった。

4 メディア

- ・平成26年3月の提言発表後すぐは、提言そのものを取り上げた報道は、4月27日読売新聞科学面等限られていた。
- ・西アフリカでのエボラ出血熱の流行の広がりにより日本でも患者発生の可能性が出てからは、マスコミがエボラウイルスを大きく取り上げるようになった。その際、国内に稼働中のBSL-4施設がないことと、3月に本提言が出されたことが紹介されるようになった。
- ・長崎大学は以前から、BSL-4施設を学内に建設するための準備を進めているが、それに関する記事の中で本提言がしばしば引用された。

5 考察と自己点検

提言を発表した後で、西アフリカのエボラ出血熱の流行が大きな問題になり、BSL-4施設のことを真剣に考える必要性が国民の間でも認識されるようになった。流行が起こる前に学術会議としての考えを提言の形で表明することができてタイムリーであった。

長崎大学が中心となって提案した「高度安全実験（BSL-4）施設を中核とした感染症研究拠点の形成」が、本提言とは別に進められた学術会議のマスタープラン2014に採択され、さらには文部科学省のロードマップ2014に掲載された。本提言はそれを後押しする力になったと思われる。

平成27年1月末に、中国の最初のBSL-4施設としてWuhan National Biosafety Laboratoryが稼働を始めたと報道されている。わが国でも、本提言で述べたように、地域住民の十分な理解を得た上で一刻も早いBSL-4施設の建設と稼働が望まれる。

インパクト・レポート作成責任者

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・

農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同

総合微生物科学分科会 委員長 笹川 千尋

提言「いのちを育む安全な沿岸域の形成に向けた海岸林の再生に関する提言」

インパクト・レポート

1 提言内容

提言 1

海岸林は、強靱な国土づくりに向けて災害リスクから人命・財産を守り、社会生活、産業を持続的に維持していくための防災・減災対策の基盤となる社会的共通資本である。津波の被災を受けた場合にも減衰効果を発揮し回復力（レジリエンス）の高い森林とするため、国及び県は、海岸地域の生態系（エコシステム）の特質を踏まえ、現行の均一整備の考え方から、多様性を踏まえた整備・保全へと方針の転換を行う必要がある。

提言 2

海岸林の整備にあたっては、当該地域の復興計画との整合を図ると共に、広域的視点に基づき、国・県・市町村・民間の土地所有の枠を超えて一体的に海岸部の整備の基本方針を策定する必要がある。これに伴い、海岸林の管理・運営・マネジメントに対して、被災者が主体的に関わる仕組みを創設し、新たな展開として、地方自治体において「持続可能な発展のための教育（ESD）」プログラムの開発を行うことが望ましい。

提言 3

東海、東南海大地震等、将来的に津波被害が想定される沿岸域の防災・減災に向けて、国は最先端の科学技術を用いて微地形、海岸林のエコシステム、背後地の現状について詳細なデータベースを作成する必要がある。これを踏まえて、県及び地方自治体は、想定される津波の設定、背後地での安全レベル、海岸林の要素と構造等を検討し、地域の合意に基づく周到な事前の保全・整備施策を導入することにより、科学的知見に基づく低コストで長期的ニーズに応えることのできる施策の社会実装を行うべきである。

2 提言の年月日

平成 26 年 4 月 23 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

東日本大震災の復興事業が進行している中で、省庁ごとに異なり、それぞれでの画一的整備ではなく、海岸地域の生態系（エコシステム）の特質を踏まえた、多様性のある政策を実行することにより、レジリエントな沿岸域を再生する政策の必要性について提言を行った。このような政策の転換は、今後予想される東海・東南海地震に対しても重要であることを提言した。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

提言は、林野庁、国土交通省、宮城県、被災自治体に対して行った。

林野庁：長官へ手交（平成 26 年 7 月）。これを踏まえて、宮城県の所管森林整備局において詳細を検討する旨の対応が行われた。

国土交通省東北地方整備局、宮城県庁においても、現在の整備内容を精査する旨の回答が行われた。

4 メディア

- ・朝日新聞（平成 26 年 6 月 7 日朝刊） 緑の防潮堤 議論噴出

この記事が契機となり、国会で国土交通省が進める緑の防潮堤事業に質問が行われ、工事の見直しが行われた。

- ・河北新報（平成 26 年 7 月 16 日）
- ・聖教新聞（平成 27 年 2 月 12 日）
- ・Landscape Design（平成 26 年 8 月号）

5 考察と自己点検

現在、防潮堤の議論は、活発に行われているが、沿岸域の保全の基本となる海岸林については、震災後、学術調査を踏まえた議論が皆無の状況にあった。そのような中で、本提言は、津波直後から残存した海岸林の生態学的調査を実施し、千年に一度の災害から、残存した森の構造を学術的に明らかにし、提言を行ったものであり、緊急かつ、政策の方針にかかわる重要なものであったと考える。

発表直後、マスコミの報道により、国会で質問が行われ、政策、施工の点検に結びつき、改良が行われていることは、大きな前進であったと考えられる。しかしながら、沿岸域は広大であり、画一的整備が進行していることは、まぎれもない事実であり、今後、様々な場で本提言が実施に移されていくよう、持続的活動が必要である。

インパクト・レポート作成責任者

第 22 期環境学委員会委員長

第 22 期東日本大震災復興支援委員会

災害に強いまちづくり分科会委員長

石川 幹子